

令和5年9月29日

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

### 参考：「全国学力・学習状況調査」について

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上PDCA）サイクルを確立する。

#### 2 調査期日・調査対象 令和5年4月18日（火） 第6学年



#### 3 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

- ① 国語
- ② 算数

##### (2) 質問紙調査

- ① 児童に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること

#### 4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立小学校 69校（69校中）
- (2) 児童数 国語 4,159人 算数 4,158人

#### 5 留意事項

##### (1) 調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

##### (2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区分別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
  - ・ 「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。
  - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
  - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

##### (3) 質問紙について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

# 1 小学校第6学年 国語

## 平均正答率

(%)

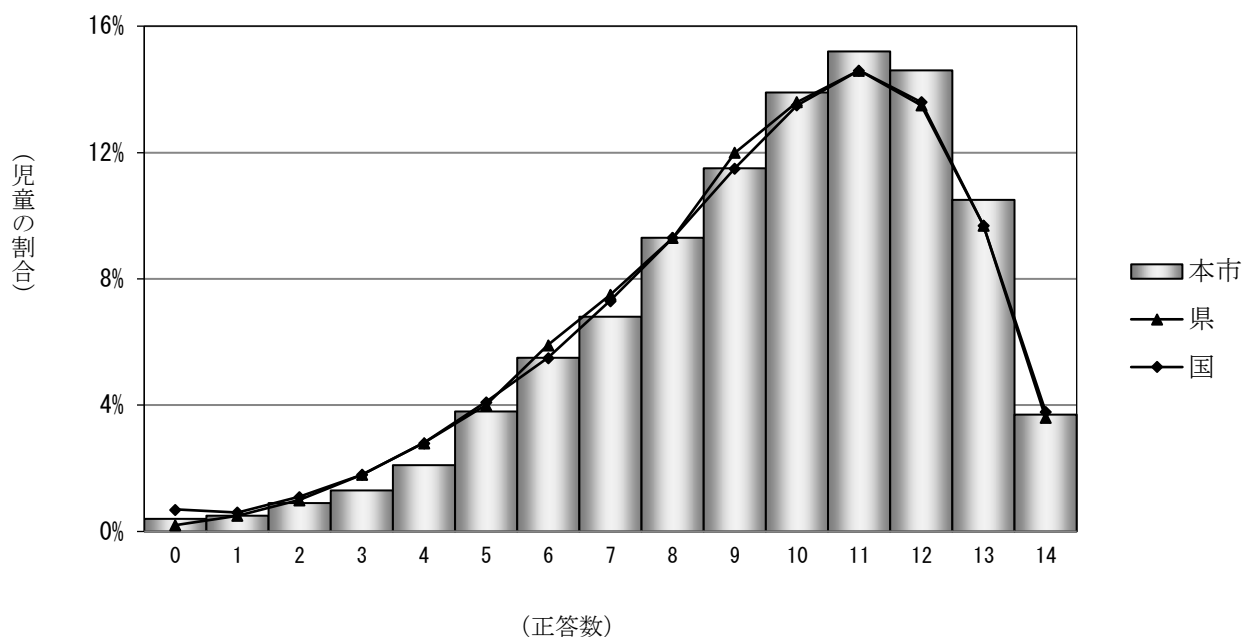
|    | 宇都宮市（市立）<br>a | 栃木県（公立） | 全国（公立）<br>b | 差<br>a - b |
|----|---------------|---------|-------------|------------|
| 国語 | 68.7          | 67      | 67.2        | 1.5        |

## 分類・区別平均正答率

(%)

| 分類                |                      | 区分                 | 宇都宮市<br>(a) | 栃木県  | 全国<br>(b) | 差<br>(a-b) |
|-------------------|----------------------|--------------------|-------------|------|-----------|------------|
| 学習指導<br>要領の<br>内容 | 知識<br>及び<br>技能       | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 72.3        | 70.7 | 71.2      | 1.1        |
|                   |                      | (2)情報の扱い方に関する事項    | 65.0        | 63.1 | 63.4      | 1.6        |
|                   |                      | (3)我が国の言語文化に関する事項  |             |      |           |            |
|                   | 思考力,<br>判断力,<br>表現力等 | A 話すこと・聞くこと        | 74.2        | 73.4 | 72.6      | 1.6        |
|                   |                      | B 書くこと             | 28.2        | 27.3 | 26.7      | 1.5        |
|                   |                      | C 読むこと             | 73.3        | 72.2 | 71.2      | 2.1        |
| 評価の観点             | 知識・技能                | 70.2               | 68.5        | 68.9 | 1.3       |            |
|                   | 思考・判断・表現             | 67.2               | 66.3        | 65.5 | 1.7       |            |
|                   | 主体的に学習に取り組む態度        |                    |             |      |           |            |

## 正答数度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 1.1ポイント)

- 漢字を書く設問の平均正答率は74.4%で、全国平均を1.6ポイント上回る。漢字を文の中で正しく使うことに良好な状況が見られる。
- 敬語の使い方について適切なものを選ぶ設問の正答率は56.4%で、全国平均を1.2ポイント下回る。日常よく使われる敬語を理解することに課題が見られる。

### 情報の扱い方に関する事項 (全国平均との差 1.6ポイント)

- 異なるカードに書かれている内容の関係として適切なものを選ぶ設問の正答率は65.8%で、全国平均を1.1ポイント上回る。原因と結果など情報と情報との関係を捉えることに良好な状況が見られる。

### 話すこと・聞くこと (全国平均との差 1.6ポイント)

- インタビューでの質問の意図として適切なものを選ぶ設問の平均正答率は75.2%で、全国平均を1.4ポイント上回る。必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることに良好な状況が見られる。

### 書くこと (全国平均との差 1.5ポイント)

- 報告文の続きを書く設問の正答率は28.2%で、全国平均を1.5ポイント上回る。
- 同設問の正答率は28.2%と低く、複数のテキストから読み取ったことを関係付けて書くことに課題が見られる。

### 読むこと (全国平均との差 2.1ポイント)

- 複数の資料から関連して読み取れる内容を選ぶ設問の正答率は70.4%で、全国平均を3.0ポイント上回る。目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

敬語を使う場合、尊敬語や謙譲語などの役割や必要性を自覚し、相手と自分との関係を意識しながら、相手や場面に応じて適切に使うことが大切である。日常生活及び学校行事などの機会を捉え、指導を継続することが重要である。

### 書くこと

報告文の続きを書く設問において、条件の一つに「グラフとカードのそれぞれから分かることを書く」ことが示されている。回答類型からは、他の条件は満たしているが、グラフとカードのどちらか一方についてしか書けなかった児童の割合が37.9%であり、複数のテキストから読み取ったことを関係付けて書くことに課題が見られた。

実際の授業では、報告文や意見文を書く際、事実と感想、意見を区別することを意識させるとともに、必要に応じて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして書く活動を意図的に設定することが必要である。

その際、自分の立場や意見と、用いる図表やグラフとの関係を吟味するため、図表やグラフから読み取れることをメモとして書き出して関係性を考察し、その後、読む相手が理解することができるものとなるよう、文章にまとめていくなど、学習過程の工夫を図ることが効果的である。

また、児童が文章を書く活動に慣れるために、作文や新聞の視写を取り入れたり、短い作文を、テーマや条件(字数、段落構成、書くべき内容など)を決めて課題とし、定期的実施したりするなどの活動も考えられる。

## 2 小学校第6学年 算数

### 平均正答率

(%)

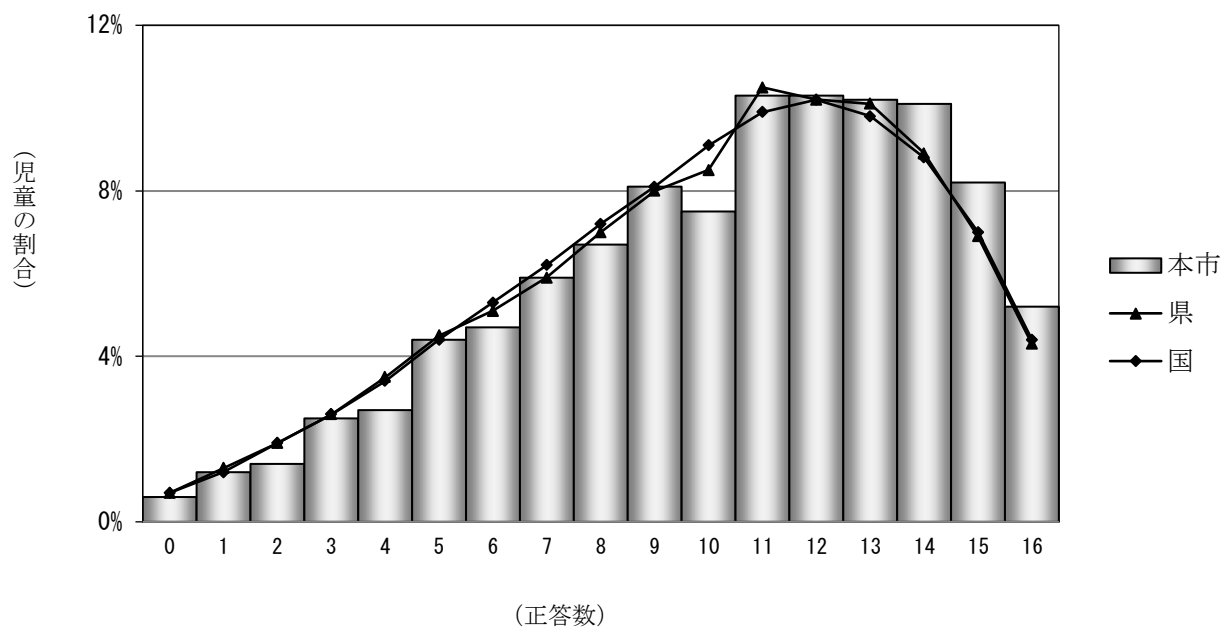
|     | 宇都宮市 (市立)<br>a | 栃木県 (公立) | 全国 (公立)<br>b | 差<br>a - b |
|-----|----------------|----------|--------------|------------|
| 算 数 | 64.4           | 63       | 62.5         | 1.9        |

### 分類・区分別平均正答率

(%)

| 分 類               | 区 分           | 宇都宮市<br>(a) | 栃木県  | 全国 (b) | 差 (a-b) |
|-------------------|---------------|-------------|------|--------|---------|
| 学習指導<br>要領の<br>領域 | A 数と計算        | 68.4        | 66.9 | 67.3   | 1.1     |
|                   | B 図形          | 52.2        | 49.6 | 48.2   | 4.0     |
|                   | C 測定          |             |      |        |         |
|                   | C 変化と関係       | 71.2        | 69.4 | 70.9   | 0.3     |
|                   | D データの活用      | 68.3        | 66.9 | 65.5   | 2.8     |
| 評価の<br>観点         | 知識・技能         | 68.4        | 67.0 | 67.2   | 1.2     |
|                   | 思考・判断・表現      | 59.4        | 57.0 | 56.5   | 2.9     |
|                   | 主体的に学習に取り組む態度 |             |      |        |         |

### 正答数度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 数と計算 (全国平均との差 1.1 ポイント)

- $66 \div 3$  の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ設問の平均正答率は 51.4% であり、全国平均を 3.8 ポイント上回った。(2 位数)  $\div$  (1 位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに良好な状況が見られる。
- 2 種類の辞典を全部並べた長さを求める 2 つの式について、それぞれどのようなことを表しているかを選択する設問の平均正答率は 69.3% であり、全国平均を 1.0 ポイント下回る。( ) を用いた式や、加法と情報の混合した式を、場面と関連付けて読み取ること課題が見られる。

### 図形 (全国平均との差 4.0 ポイント)

- テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、理由を記述する設問の平均正答率は 32.5% であり、全国平均を 11.7 ポイント上回る。高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに良好な状況が見られる。

### 変化と関係 (全国平均との差 0.3 ポイント)

- 基準量と比較量から、割合が 30% になるものを選択する設問の平均正答率は 47.9% であり、全国平均を 1.9 ポイント上回る。百分率で表された割合についての理解に良好な状況が見られる。
- 椅子 4 脚の重さが 7 kg であることをもとに、48 脚の重さの求め方と答えを書く設問の平均正答率は 55.3% であり、全国平均を 0.2 ポイント下回る。伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。

### データの活用 (全国平均との差 2.8 ポイント)

- 2 つのグラフから、30 分以上の運動をした日数が「1 日」と答えた人数に着目して、分かることを書く設問の平均正答率は 59.7% で、全国平均を 3.5 ポイント上回る。示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 数と計算

日常生活の事象を数理的に捉え、式に表現して処理したり、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫したりすることが重要である。

そのためには、日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題解決に式を用いることができるようにすることが大切である。

例えば、分配法則や結合法則で表現された複数の式について、式の中の数値や演算は何を表しているかを明らかにして説明するなど、式を読む学習が有効である。

### 変化と関係

ある数量を調べようとするときに、児童自らがそれと関係のある数量を見いだして数量の間にどのような関係が成り立つのかを予想したり、数や場面を変えても同じように関係が成り立つのかを考えたり、なぜそのような関係が成り立つといえるのかを表現したりすることが重要である。

そのためには、伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見つけていくことができるようにすることが大切である。

例えば、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について、表などを用いて、変化の規則性を基に説明する学習や、比例の関係にあることに基づいて解決できたことを確認する学習が有効である。

### 3 小学校質問紙

#### 【児童質問紙の状況】調査結果（全63問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（\*それ以外の選択肢等の場合）

| No. | 質問の内容  | 肯定的な回答の割合 |         |
|-----|--|-----------|---------|
|     |  | 宇都宮市      | 全国平均との差 |
| 1   | 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか   | 83.0%     | 8.2     |
| 2   | あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか  | 84.8%     | 7.6     |
| 3   | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）*1時間以上 | 62.4%     | 5.3     |
| 4   | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）*30分以上           | 47.7%     | 6.6     |
| 5   | 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか   | 95.2%     | 5.4     |
| 6   | 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか  | 78.6%     | 10.1    |
| 7   | 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか  | 80.8%     | 5.1     |
| 8   | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）*30分以上                                  | 33.5%     | △3.8    |
| 9   | 新聞を読んでいますか *週1回以上  | 10.5%     | △2.1    |

## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 授業や学習について (No. 1, No. 2)

- No. 1 の肯定的回答の割合は、全国平均より 8.2 ポイント上回っている。各学校では、探究的な学習の中で、児童が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けることができるよう学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、総合的な学習の時間の充実が図られていると考えられる。
- No. 2 の肯定的回答の割合は、全国平均より 7.6 ポイント上回っている。各学校では、児童同士が目標を共有したり、協働して解決方法を話し合ったりする活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

### 家庭学習について (No. 3, No. 4)

- No. 3 について、1 時間以上学習をしていると回答している児童の割合は、全国平均を 5.3 ポイント上回っている。No. 4 については、1 人 1 台端末を 30 分以上家庭学習で活用していると回答している児童の割合は、全国平均を 6.6 ポイント上回る。各学校では、課題の提示について工夫がなされているとともに、家庭学習の習慣化に向けた具体的な指導が展開されていると考えられる。

### 自分自身のことについて (No. 5 ~ No. 7)

- No. 5, 6, 7 の肯定的な回答割合は、それぞれ全国平均を 5.4 ポイント、10.1 ポイント、5.4 ポイント上回っている。各学校では、教育相談等の機会を大切にしながら、児童理解を推進するとともに、学校での学びを日常生活で生かしたり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりするなど、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められていると考えられる。

### 学習環境について (No. 8, No. 9)

- No. 8 について、30 分以上読書をしていると回答している児童の割合は、全国平均を 3.8 ポイント下回っている。読書活動は、言語能力や豊かな感性の育成にとっても重要なものであると考えられるため、児童が自主的・自発的に読書活動を充実させることができるよう、学校図書館が中心となり、学校と家庭が連携した指導を継続していくことが必要であると考えられる。
- No. 9 について、週 1 回以上新聞を読んでいると回答している児童の割合は、平成 26 年度の調査と比べると 14.1 ポイント低くなっており、減少傾向が続いている。また、全国平均を 2.1 ポイント下回っている。こうした状況を踏まえ、各教科等の授業では、新聞を適切に活用した学習活動を工夫するなど、情報活用能力の充実を図っていくことが必要であると考えられる。

## 【学校質問紙の状況】

### 調査結果（全91問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。

（\* それ以外の選択肢等の場合）

| No. | 質問の内容  | 肯定的な回答の割合 |         |
|-----|--|-----------|---------|
|     |  | 宇都宮市      | 全国平均との差 |
| 1   | 調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか                                 | 95.7%     | 8.0     |
| 2   | 調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか                  | 98.5%     | 4.2     |
| 3   | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか                                       | 98.6%     | 5.5     |
| 4   | 調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか                                | 100%      | 7.3     |
| 5   | 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）                           | 94.2%     | 10.0    |
| 6   | 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか                       | 100%      | 7.8     |
| 7   | 令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか。（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む） | 100%      | 12.0    |
| 8   | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか                            | 100%      | 1.1     |
| 9   | 前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか                                | 88.4%     | 27.8    |
| 10  | コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まりましたか   | 95.7%     | 9.6     |
| 11  | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか   | 100%      | 4.3     |



## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 授業中の指導や児童の学習状況について (No. 1 ~No. 4)

- No. 1, 2の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 8.0 ポイント, 4.2 ポイント上回っている。各学校では、学習指導要領の趣旨や内容についての理解が深まり、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、対話的で深い学びの視点に立った協働的な学習を推進するなど、教育内容や指導方法の改善及び充実が図られていると考えられる。
- No. 3, 4の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 5.5 ポイント, 7.3 ポイント上回っている。各学校では、探究的な学習の中で、児童が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けることができるよう学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られていると考えられる。

### 研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 5)

- No. 5の肯定的な回答の割合は、全国平均より 10.0 ポイント上回っている。各学校では、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されていると考えられる。

### 学力・学習状況調査結果の活用について (No. 6, No. 7)

- No. 6, 7の肯定的な回答の割合は 100%であり、それぞれ全国平均より 7.8 ポイント, 12.0 ポイント上回っている。自校の調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されていると考えられる。

### 本市の推進する取組等について (No. 8 ~No.11)

- No. 8の肯定的な回答の割合は 100%であり、全国平均より 1.1 ポイント上回っている。各学校では、教員が、児童一人一人の学びの成長を伝えるとともに、学んだ内容と社会とのつながりが感じられる授業が展開されていると考えられる。
- No. 9について、全国平均より 27.8 ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されていると考えられる。
- No. 10について、全国平均より 9.6 ポイント上回っている。各学校では、魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と連携・協働した学校づくりが推進されていると考えられる。
- No. 11の肯定的な回答の割合は 100%であり、全国平均より 4.3 ポイント上回っている。各学校では、学校での学習を補充し、学習内容の定着が図られるよう、家庭学習の充実に向けた指導が推進されていると考えられる。

## 【児童質問紙と教科の正答率のクロス集計の状況】

- ・ 学力層を上位から順に25%ずつ、4層（A-D層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- ・ A-D層間の開きの大きい質問は、正答率の高い児童ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があると考えられる。

### 〈A-D層の差が10ポイント以上のものから抜粋〉

| No. | 質問の内容   | 宇都宮市   |          |
|-----|---|--------|----------|
|     |   | A-D層の差 | 肯定的な回答割合 |
| 1   | 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか                                      | 26.7   | 65.1%    |
| 2   | 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか  | 22.8   | 83.0%    |
| 3   | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか  | 21.8   | 78.5%    |
| 4   | 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか  | 20.9   | 77.4%    |
| 5   | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）<br>* 1時間以上 | 20.6   | 62.4%    |
| 6   | 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか  | 20.1   | 82.4%    |
| 7   | あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）<br>* 100冊以上  | 19.4   | 29.0%    |
| 8   | 読書は好きですか  | 16.5   | 75.1%    |
| 9   | 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか  | 15.9   | 84.3%    |
| 10  | 国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか  | 15.5   | 82.1%    |
| 11  | 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）<br>* 1時間以上       | 14.2   | 25.2%    |
| 12  | 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか  | 14.1   | 78.4%    |
| 13  | あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか   | 13.9   | 84.8%    |
| 14  | 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか   | 13.2   | 85.0%    |
| 15  | 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）  | 13.0   | 75.3%    |

## 傾向と考察及び指導の留意点

- ・ 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

### 授業での学習について

|       |  |
|-------|--|
| No. 3 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか |
| No. 6 | 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか         |
| No. 9 | 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか                             |

- ➡ 個々の児童の学習状況を丁寧に見取り、個に応じた適切な指導・支援を行いながら、発問の仕方や学習活動を工夫するなどして、児童がじっくりと考え、まとめ、振り返る時間を確保するとともに、児童が身に付けた知識及び技能を次の学習や生活につなげることができるよう活用の視野を広げたり、他教科等の内容との関連付けを自覚的に行えるよう促したりするなど、教師のコーディネート力が求められる。

### 言語能力・情報活用能力の育成について

|       |  |
|-------|--|
| No. 1 | 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか |
| No. 2 | 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか             |
| No. 4 | 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか                 |
| No.14 | 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか                        |

- ➡ 情報を収集し、読み取り、まとめる活動や文章の構想、個々の考えや意見の集約、発表等の活動については、1人1台端末を有効に活用した協働的な学習を推進するとともに、まとめたり、書いたりする課題などについては、これまでの実践とICTとの最適な組み合わせを十分に検討するなど、言語能力や情報活用能力の育成に係る取組の充実を図ることが必要である。

### 家庭学習の習慣化について

(\*回答の選択肢等が他とは異なる質問項目)

|         |  |
|---------|--|
| * No. 5 | 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか<br>* 1時間以上 |
| * No.11 | 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか<br>* 1時間以上       |
| No.15   | 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）                     |

- ➡ 家庭と連携して、児童が節度をもった生活習慣を身に付けることができるよう指導に努めるとともに、学校全体の共通理解のもとに課題設定の方法や課題の内容、家庭学習の成果の点検・評価の仕方等を工夫し、児童の自主的・自発的な取組を促すことが大切である。